



# 私のひとりごと

## 「笑顔の訳」

年に一度の区人足の日。例年なら林道の側溝に溜まった土砂上げ作業であるが、区長さんの粋な計らいで、自然を楽しみながらの登山と相成った。登山といっても皆様が想像するいでたちではなく、長靴に作業着で、腰にはナタやノコをぶら下げての格好で、少しこっけいでもあるがそこは同じ区民どうし、人目を気にすることも無くワイワイガヤガヤとの出発となった。

片道、約二時間程のコースである。何を隠そう、いやいや全く隠す必要も無いが私は登山の経験が無い。わざわざ大変な思いをしてどうして登るのだろうと否定的でもあった。原因の一つに関節が悪い事もある。少し歩くだけ



群生するトリカブトの花

でも股関節のあたりが痛くなり、また空手を長く続けたせいも手伝ってか、歩き方によっては膝に激痛が走るなど、見かけによらず…いやいや正直、見かけと同じボロボロなのだ。付け加えれば、毎朝布団から起き上がるかも不安で、立ち上がれるだけで感動する毎日である。

そんな訳で気がつけば一番最後尾を歩いている。ところが歩き始めるとこれが以外に楽しいのである。生い茂ったブナ林からの木もれ陽。木々に熊が付けたと思われる爪痕。群生するトリカブト。小鳥のさえずり等等。また一緒に歩いている人達が登山の経験

者で、その素晴らしさを熱く語りかけるのであるから、単細胞の私を洗脳？させるのに時間は掛からなかった。「登山はいいな～」である。

で、とうとう頂上まで歩き、不思議な達成感を味わった。ところが、いくら単細胞の私でも重要な事に気がついた。山に登れば当然下りがあるのであるが、エネルギーの殆どを使い果たしていたのだ。帰りの道中、膝の痛い事、痛い事。帰り道の長い事、長い事。登山は下りのほうが大変だと、身を持って学習したが、不思議と嫌にならなかった。

そういえば去年、出張で長野に出向いた折、電車“あずさ”の中は笑顔溢れる中高年の登山客で一杯だった事を思い出し、遅ればせながら、あの人達の笑顔の訳が理解出来るような気がした。



ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

